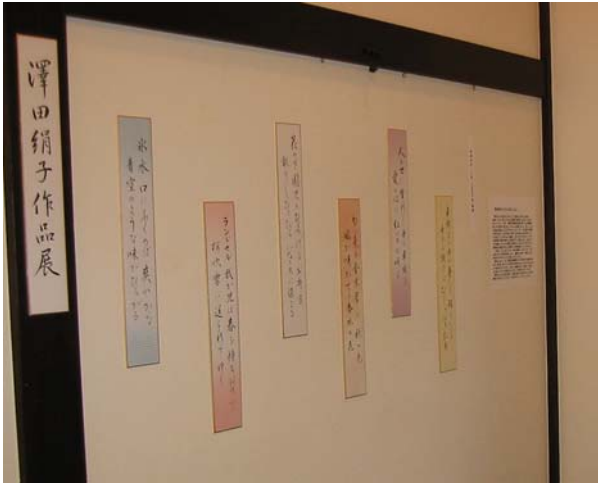


澤田さんのご紹介

川越ティーベリーサロンにて指導師コースに受講中の澤田さんは、生まれながらにして重度の小児マヒを患い、28歳になるまで秩父の大きな農家の座敷から出ることはありませんでした。新聞で障害者施設の受け入れ募集を見て、外の世界に飛び出してみようと決意しました。成人してから家族の迷惑になるのが辛かったからです。その施設で短歌や俳句を知り、自分の想いを歌に込める楽しさを知りました。その後、ご主人と知り合い、結婚し、男の子ももうけました。結婚後も短歌の先生に師事しその腕を磨いていきます。

主人を亡くした一時は悲嘆にくれましたが、息子の将来を楽しみにしながら、趣味のお茶で一服しながら歌を作るのが何よりの楽しみです。今は好奇心も旺盛に電動車イスで何処でも出掛けております。（澤田さん談）

澤田さんの活動の様子はティーベリーのハピネス日記第5号にも紹介されていますが、今回はお茶会を催したときの様子をご紹介します。澤田さんの自筆によるレポートですので、皆様にもそのまま見ていただきたく思い、スキャンした画像を掲載しました。ご了解下さい。



ティーベリーにおける澤田絹子作品展の様子



澤田さんによるお茶会の様子

お茶との出会い

澤田 絹子

いつも通っている所に喫茶店があり、た
改建し明るくきれいになつて。今までの人
とちがう若い世の人がかざりつけていま、左
私は立止り中をみていた。中に入つてみませ
んがと、声をかけていた。たまたまその時
は入れませんで、車とスリプが差があり入れ
ないといひまゐる。十分くらいたちまゐる
と段差にスリプが落ちてあり、また、又い
つものように中をみていま、若い世の人
が出てきて、水まゐる。スリプをつけて左
から入ります。といふと、水まゐる。その
い小物やじつさいには、みえこともない。ちいさ
なお茶もたくさんあり、また。お話をきい
つて、いるうちに私が店をかりて、改建し、アイ
ベリとゆう喫茶店を初めました。お茶は紅茶
中国茶、ふしむいあとは、コーヒとりんご、ヨー
また、いす。あとは、健康をいう、いうや、とい
ます。果ては、健康にも出で、みまゐる。人がとお

ことばを介けていたとき、お茶をしながら
の時のお茶は紅茶をいたときも、よくど
かき分けてお茶をいす。中国茶もいたとき
まーた分けておいのかたです。中国茶の諸侯には
いさせていたときも一年間勉強（べんきょう）し
つづけていた。ひきつづきもう一年勉強
させていたときも、いなかやと身
につけていた。二年間しや、と終
了（しりょう）したときも、先生はいぬあ
とおきくさんとして三人きり、いたときも
左。おみやげにお茶、普洱茶、紅茶、おかやお
花もいたときも、私にとて左のいお茶
会（かい）して左。漢字（かんじ）がよめませんで
すから、水
かきもお茶に、いつのバレートや又本や
いろいろお茶の葉（は）について、どこで
ち（ち）踏（ふ）してゆき、いと思いきり、私は学校も
でいて、いので、勉強（べんきょう）して、お
かけです。先生やまわりの人のちからをおか
り、又おーえといふ、さ、と思いきり。中国
茶も勉強（べんきょう）して、から私の人生は、ち
かりました。

スタッフ

先生はじめのみなさん中国茶の講座の
なかまのみなさんいい人ばかりです。
これからお茶会では一年は私の
お茶会のお茶会でははうわい。又
し。と。思。い。ま。す。